

医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要な感染症

病気の名前	原因	潜伏期	感染経路	主な症状	登園停止期間	備考
マイコプラズマ肺炎	ニューモニア (ウイルスでも菌でもない)	14日～21日	飛沫感染	発熱・頭痛・咳は徐々に激しくなり、しつこい咳が3～4週間続くレントゲンや血液検査で診断できる、悪化すると肺炎になる	発熱や激しい咳が改善し、全身状態が良いこと	中耳炎・鼓膜炎 発疹を伴うこともある
手足口病	ウイルス	3日～6日	飛沫感染 糞口(経口)感染 接触感染	水疱性の発疹が手足(特に手のひらや指の間)口の周り、口腔内、肛門周囲や足の裏にできる口内炎がひどいと食事がとれなくなる熱は軽度である	解熱後1日以上が経過し、普段の食事ができる	数種類のウイルスがあるため 違う型のウイルスなら複数回かかる
伝染性紅斑 (りんご病)	ウイルス	4日～14日	飛沫感染	軽い風邪症状の後に頬が赤くなったり、手足にレース様の赤っぽい発疹が見られる頬の赤みは、紫外線に当たると増強するので紫外線予防が必要	頬が赤くなったところにはすでに感染力が消失しているので全身状態がよいこと	一度かかったら2回目はない
伝染性膿痂疹 (とびひ)	菌	2日～10日	接触感染	湿疹や虫刺されを掻いたところに細菌感染をおこし、水疱やただれを形成するかゆみが強く、掻くことで病巣部が広がっていく	化膿しているところがジュクジュクしているときは、接触しないよう登園は控える 必ず抗生物質による治療が必要 乾燥していること	何度でもかかる
感染症胃腸炎 (ロタウイルス) (ノロウイルス)	ウイルス ロタウイルス ノロウイルス	1日～3日 12時間～48時間	飛沫、経口(糞口)感染 接触感染 食品媒介感染	突然の嘔吐・腹痛・下痢・発熱 冬に流行するロタウイルスでは、便が白っぽくなる	嘔吐・下痢等の症状が始まり、普段の食事ができること	吐物や便から感染力が強いため嘔吐物には適切な処理方法が重要 脱水に注意する
ヘルパンギーナ	ウイルス	3日～6日	飛沫・接触感染 糞口(経口)感染	突然の高熱・のどの痛み・のどの奥に水疱や潰瘍ができるのどの痛みで飲食ができないことがある	発熱がなく(解熱後1日以上経過し) 普段の食事ができること	何度でもかかる
RSウイルス感染症	ウイルス	4日～6日	飛沫感染 接触感染	発熱・鼻汁・咳・喘鳴(ヒューヒュー)、ゼーゼーなどの呼吸音)呼吸困難乳児ではひどくなりやすく、呼吸困難が酷ければ入院しなければならない	呼吸器症状が改善し、全身状態が良いこと(医師の診断に従う)	何度でもかかる
突発性発疹	ウイルス	約 10日	飛沫、経口感染 接触感染	38℃以上の高熱が3日～4日続いた後、解熱とともに体幹から徐々に四肢に広がる発疹が出現、生まれて初めての高熱であることが多い熱性けいれんを起こすこともある	解熱後1日以上が経過し、機嫌がよく全身状態が良いこと 終了するまで	1度かかれば、ほぼ2回目はないがまれに2回かかる子どももいる
頭ジラミ	頭ジラミ	10日～14日	接触感染(頭皮から頭髮、衣服、帽子やくし、寝具を介して感染)	多くが無症状だが、髪(特に耳の後ろ側)に卵を産みつけられる、産卵から成虫孵化まで10日～14日かかる吸血部分にかゆみを訴えることがある	駆除を開始していること	一定期間の駆除を完了しないと増え続けるため、最後まで駆除を続けること
伝染性軟属腫 (水いぼ)	ウイルス	2～7週間	接触感染	芯がふくまれる盛り上がった丘疹(いぼの白い内容物中にウイルスがいる) 自然治癒までは、半年ほどかかる 皮膚が乾燥すると広がりやすいため、しっかり保湿すること	水いぼの部位は、服などで覆い。接触しないようにする 滲出液が出ている時はガーゼなどで覆うこと	数が増えすぎると皮膚科治療が必要プール時は接触しないよう必ず覆うこと

登園する場合には、登園許可書が必要な感染症

病気の名前	原因	潜伏期	感染経路	主な症状	登園停止期間	備考
麻疹(はしか)	ウイルス	8日～12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発熱・咳・鼻汁・結膜充血・めやに 口腔内コプリップ斑とよばれる特徴的な発疹 一旦解熱後、再び発熱し体内に発疹	解熱後、3日を経過するまで 咳や発疹が経過するまで	登園許可書が必要
風疹(三日はしか)	ウイルス	16日～18日	飛沫感染 接触感染	発熱(程度は一般的に軽い) 発疹は、顔→頭→身体→手足へと広がり、約3日で消える リンパ節の腫脹は、痛みを伴う	発疹は消失するまで	登園許可書が必要
水疱(水ぼうそう)	ウイルス	14日～16日	空気感染 飛沫感染 接触感染	発疹は体幹から全身に頭皮や口腔内にもできる 強いかゆみを伴う	全ての発疹がかさぶたになるまで	登園許可書が必要
流行性耳下腺炎 (ムンプスおたふく)	ウイルス	16日～18日	飛沫感染 接触感染	発熱・頭痛のあと、片側ないし両側の耳下腺部の痛み、腫れ・強いかゆみを伴う 合併症として、髄膜炎や難聴、脳炎を起こすことがある	耳下腺・顎下腺・舌下腺の脳腫発見後5日を経過するまで、かつ、腫れや、痛みもひいて、全身状態が良くなるまで	登園許可書が必要
インフルエンザ	ウイルス	1日～4日 (平均2日)	飛沫感染 接触感染	突然の高熱・関節炎・筋肉痛・頭痛 感冒症状(のどの痛み・咳・鼻汁)	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで	登園許可書が必要
コロナウイルス感染症	ウイルス	1日～14日	飛沫感染 接触感染	発熱・下痢・味覚障害 感冒症状(のどの痛み・咳・鼻汁)	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで	登園許可書が必要
咽頭結膜熱(プール熱) アデノウイルス	ウイルス	2日～14日	飛沫感染 接触感染 プール感染	39℃前後の高熱・頭痛・のどの痛み・食欲不振 結膜炎(充血・めやに)	発熱・のどの赤み・眼の充血が消失後2日を経過するまで	登園許可書が必要
百日咳	菌	7日～10日	飛沫感染 接触感染	風邪の症状から始まり、1～2週間で「コンコン・ヒュー」という特有な咳発作になる(夜間は悪化しやすい) 熱はほとんど見られない	特有な咳が消失するまでまたは5日間の適正な抗生物質による治療が終了するまで	登園許可書が必要
流行性角膜炎 (はやり目)	ウイルス	2日～14日	飛沫感染 接触感染	結膜の充血・涙・めやに 耳前リンパ節の腫脹と圧痛	結膜炎の症状が消失してから 医師により感染のおそれがないと認められるまで	登園許可書が必要
急性出血性結膜炎	ウイルス	1日～3日	飛沫感染 接触感染 経口(糞口)感染	結膜出血が特徴	医師において感染の恐れがないと認められるまで	登園許可書が必要
帯状疱疹	水筒ウイルス	(不定)	接触感染 水痘が形成されている間は 感染力が強い	小さな水疱が神経に沿った形で片側性にあらわれる 神経痛や刺激感、かゆみを伴うことがある	全ての発疹がかさぶたになるまで	登園許可書が必要 水痘にたいして免疫のない 児が帯状疱疹の患者と接触 すると水痘を発症する
溶連菌感染症	菌	2日～5日	飛沫感染 接触感染	突然の発熱。のどの痛み(つばを飲むのも痛い)咽頭発赤、イチゴ舌、全身の発疹、 リウマチ熱や胃炎を合併することがある	抗菌薬内服後24時間～48時間を経過していること(治療の継続は必要)	登園許可書が必要 何度でもかかる